

1. 伐採木・剪定枝の有効利用と廃棄物削減

廃棄物削減とCO2固定を考慮すると、伐採木や剪定枝を有効利用することが望ましい。剪定枝の有効利用としては、工作物や木のオモチャ、土留め、見切り材、非常時の薪の材料、土壌改良材として炭などの他、ウッドチップにして舗装材やマルチング材として利用するなどがあげられる。

<表1>伐採木・剪定枝の有効利用例

分類	利用例
幹	ベンチやテーブルなどの家具、加工して集成材などの木材などに利用。
太い枝	柵や土留め材、縁材、薪などに利用。
小枝	薪やウッドチップにして園路の舗装材などに利用。
葉	落葉マルチ材、腐葉土、土壌改良材などに利用。

2. 剪定枝の有効利用と留意点

- ① 枯木、枯枝を生きている樹木の根元に敷設すると、腐朽病害が出る可能性があるため根元に置かない。
- ② ウッドチップのマルチングを厚く施すと、腐朽病害が出るので注意する。落葉マルチが適す。
- ③ ウッドチップの未分解の堆肥を施すと窒素飢餓や病気がでるので施さない。マルチとして利用する。
- ④ イチョウやサクラの枝、針葉樹の枝などは作物の根に有害なフェノール類を多く含むので、完全に堆肥化してから農作物などに利用する。
- ⑤ 非常時にも役に立つロケットストーブや薪ボイラーなどの原料にすることが望まれる。
- ⑥ 野焼き規制適用外のコンパクトな無煙炭焼き器(無煙炭化器)などでの炭化し炭も望まれる。



・幹をベンチやスツールに利用



・枝を木フェンスに利用



・枝を縁材やウッドチップ舗装に利用



・ガーデニングの縁材や誘引材に利用